

ワンポイント情報 S A A 北川 健二 会員

今日は会場監督と例会の中途退席についてお話をします。

会場監督とは、例会場の秩序を保つために、あらゆる権限をもつ役職であると明記されています。会場監督が正式な役職として定められたのは、ロータリークラブがシカゴで誕生した翌年1906年であり、シカゴクラブでの最初のS A Aは、ポール・ハリス、マックス・ウォルフ、チャールズ・ニュートンが就任しています。

次に最近入会した会員も多いので、例会の中途退席について例会出席が認められるのは、クラブ細則にもうたわれている通り60%ルールがあります。通常の例会ですと1時間ですので、その60%36分出席すると例会出席が認められます。当クラブでいうと1時6分、但し講師を招いた例会では、講師が話し始めた頃の退席となり失礼になる場合もあります。私が入会した時先輩から、中途退席するときは会長挨拶が終わってから退席するようにと、会長挨拶にはクラブ・地区・R Iの出来事を話してくれるから、それを聞いての退席を目途にと言われました。併せて出来るだけ中途退席しないようにと、どうしても中途退席する時は、例会の始まる前に会場監督もしくは、副会場監督に一言云うように指導を受けました。

ライラセミナーに引率参加して 新世代委員会 田中 和紀 委員長

8月21～23日に帯広ロータリークラブがホスト役となり、山本信男ガバナーのもと、十勝川温泉ホテル大平原で、第30回ライラセミナーが開催されました。

青年の参加人数は、男性42名、女性26名で合計68名でした。ロータリアンのカウンセラー53名、関係者を含めて、140～150名の参加となりました。

第30回ライラセミナーに参加して たかはし薬局柳町日赤前店勤務 土肥 聖子さん

私はまず始めにロータリークラブとは・・・？から始まりました。一体何をするセミナーなのだろうか、ロータリークラブとは何を目的にどういう活動をしているのかと、分らないまま参加しました。

開講式で配られたプログラムに目を通すと、「共同生活を通じ、心を開き語り合い、研修し、親交を深めることで、より良き社会人として、明日をリードする指導者として、更に成長することをねらいとする」と書かれてあり、指導する立場になるためにはこういう考え方もある事に気づかされ、今回のセミナーに興味が出てきました。

職業も年齢もバラバラの男女約70名が集まり、そこから1チーム10名に分けられ、この3日間行動を共にするという事で、もともと初対面が苦手な私は不安でいっぱいでしたが、新たな人と交流が出来ることに期待もしていました。

1日目は初対面の人との交流の為に、幕別町札内スポーツセンターでチーム対抗の身にバレーをしました。ここで勝ったチームから順に2日目に予定しているネイチャーツアーか、カヌーとサイクリング

体験のどちらかを選べるという事で優勝を目指しチーム一致団結する事が出来ました。折角参加できたのだからおもいきり楽しんで帰りたいという思いは皆同じでした。私のチームは一回戦で負けて、だめかと諦めかけていたのですが敗者復活戦があり、そこから勝ち上がってなんと2位になりました。スポーツを通じてこんなに早くチーム全員打ち解けられたことにも驚きました。

夕方の歓迎親睦会は、外でバーベキューでした。ようやくチームの人達とゆっくり話す事が出来た時間でした。一人ひとりの職業、出身地、今の生活など自分と全く違う事をしている人達の話は、とても興味深く、今まで私は知らない事が多過ぎた事に気づきました。

人に好奇心を持つ事で人夫々の考えを聞き、相手を知り、人の輪が広がる事で自分の視野が広がっていくと思えた出会いでした。そして人を受け入れる事も大事だと思いました。

今まで話す前から苦手だと思ったら少し距離をとってしまっておりましたが、もしかして話を受け入れてみたら何かが変わるかもしれないと思うようになりました。

2日目は朝から昼間まで十勝川ネイチャーツアーでラフティングを体験しました。

ラフティングとは大き目のゴムボートに10人乗り、急流を下っていくものです。最初に漕ぎ方を教わり、始めは足元が不安定で川の流れもあり怖い感じでしたが、すぐに慣れ流れに沿って流れていく感じを楽しむ事が出来ました。流れのきつい所はみんなの目が輝きワクワクするポイントになっていました。川の合流地点や地層など間近に見る事ができ改めて自然の不思議さ大きさを感じる事が出来ました。そして十勝石と名前のついたガラスでできた石もみることが、初めての体験となりました。

それから午後の基調講演が始まりました。

第一部では、社会福祉法人ほくてんの後藤健市先生の「見えないって何？アイマスク体験を通して考える」をテーマに見えないことを考える話と体験をしました。まずは今現在の視覚がい害者は約30万人いるという事で、その中で障害者手帳を持っている人はわずか1割で、何の不自由のない人達と同じような生活をしている人が多い事を知りました。

実際アイマスクをつけて、一人ガイドをしてくれる人をつけ、ホテルの廊下を歩いてみました。見慣れている場所でも見えなくなると距離感や、自分の歩く速さなどの感覚も分らなくなり恐怖さえ感じました。ガイドをしてくれる人も信用できないと安心して歩く事ができませんでした。普段あまり気にしないような一寸した音や匂いにも敏感になっている事に気がつきました。次にガイド役になり、体と言葉で伝える事がこんなにも難しいとは思いませんでした。相手に伝えるにはどう言えば良いのか、どのタイミングが良いのかなどと常に考えながら歩くので頭を使う事も分かりました。人の命を預かるという責任感が必要で、ポイントは必要な情報を必要な時に必要なだけ提供する事を教わりました。

そして点字も教わり、実際打ってみました。難しいものと思っていたのですが、規則性があり、少し練習すると誰にでも実践できるものでした。

見えない人には触る・聞くことでしか情報を得る事ができないので、点字の大切さも分かりました。あまり点字のものを見かけることがないので、ここで教わった点字を役立てられれば良いなと思っています。そして人と接する仕事をしているので、表情をよむ事のできない人にも伝えられる接客を考えて行こうと思いました。

この体験で、見えないと出来ない事を知っておく事、見えるという当たり前のことを大切にする事に気がつきました

第2部の講演では、帯広畜産大学の関川三男先生から「馬鹿の壁と利口の天秤」をテーマに聞かせて

頂きました。

馬鹿の壁とは・・・自分の知りたくない事の情報遮断し、安易に理解していると思ひ込む事。利口の天秤とは・・・バランスの取り方。と説明してもらい、私も勝手に思ひ込み、耳をふさいでしまう時があるなあと思いました。耳をふさがず聞いていたら何かのヒントになっていたのかもしれないと、今思うと損をした気分になりました。

今回の二つの講演は楽しく聞くことが出来、学ぶことが出来ました。そして障がいを持っている人のこと、自分自身のことを考えるよいきっかけになりました。

講演後、グループディスカッションが始まり、各グループ毎にテーマがあり、考え、話し合い、まとめて発表する。私のグループは「明るい日本の実現に向けて」がテーマでした。テーマが大きい為なかなかまとまらず、今の少子化問題・介護の問題などと出すと、きりが無いくらい出ておりましたが、若い子でも現実をちゃんと見て、考えている事が分かりました。そして皆にも分かりやすいという事で「食」をテーマに、日本のものを食べよう、そうする事で地域から日本全体の活性化になるのではないかとまとまりました。

3日目は前夜のグループディスカッションのまとめた事を発表しました。

テーマは全体で3つあり、一つ目が「思いやりのある社会の実現に向けて」で、当たり前のことを大切にする、例として優先席がないのが当たり前の社会にするなどが挙げられていました。二つ目が「今後の人口減少を食い止める為に」がテーマで、不安要素が多い為周囲の協力の必要性や、赤ちゃんの意味などを考えるなどでした。三つ目が私たちのチームテーマ「明るい日本の実現に向けて」で、どれもこれも生かせそうな事ばかりでした。

この3日間を振り返り、やった事もないのに決め付けず、出来る事も、出来ない事も大切にし、苦手なこと・やった事のないことも楽しんで出来るような、心をつくることが大切だと思いました。その大切さに気がつくことが出来てとても意味のある時間となりました。ライラセミナーに参加させて頂きありがとうございました。